

平成29年度第38回
東京都トラック協会ドライバー・コンテスト
学 科 競 技
問 題

【出題内容】

- I 法 規：問 1 ～問40
- II 構造機能：問41～問60
- III 運転常識：問61～問80

競 技 上 の 注 意

この競技は、運転者に必要な関係法規やプロとしての一般的な知識について試問するものです。

また、この試問は、一般（11トン・4トン・2トン）、女性及びトレーラの各部共通となっています。

注意事項

- ① 問題は全部で80問です。
- ② **制限時間は60分です。**
- ③ 解答はすべて別紙の解答用紙に、「正しい」と思うものについて、解答用紙の同じ問番号の枠内に「○」印を、「誤っている」と思うものについては「×」印を下記要領により記載すること。（四肢選択式問題は「○」のみの記載でよい）

《例》

【四肢択一問題】

【○×正誤式問題】

問	選択肢			
	1	2	3	4
1		○		
2			○	

問	答
12	○
13	×
14	×

- ④ 解答用紙には、鉛筆を使用し、誤って記載した場合は、跡の残らないように消しゴムで消すこと。
- ⑤ 解答用紙には必ず競技部門、受験番号、氏名を記載すること。
- ⑥ **この問題用紙は試験開始の合図があるまで開けないこと。**
- ⑦ 印刷の不鮮明なところがあれば、着座のまま静かに手を挙げて係員に尋ねること。ただし、問題の内容に触れるものには回答しません。
- ⑧ 問題用紙に、メモ、計算等を書き込んでも差し支えない。問題用紙は選手がそのまま持ち帰ること。
- ⑨ 試験開始45分を経過しましたら退席できます。11時45分になりましたらお知らせします。解答用紙は壇上までお持ちください。他の選手のじゃまにならないよう静かに退席すること。一度退席したら再度入室は出来ません。
- ⑩ 終了時間については、終了5分前に予告します。

平成29年7月8日（土）
於 東京都トラック総合会館

「いまを支える。「みらい」をつくる。

I 法規 (40問)

【4肢択一式問題】

問1. 「駐車」に関する次のア～エの記述のうち、誤っているものはいくつあるか。

解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

- ア 人の乗降のための停止は駐車とはならない。
- イ 車の故障による継続的な停止は、やむを得ないので駐車とはならない。
- ウ 貨物の積卸しのための停止で5分を超えない時間内のものは駐車とはならない。
- エ 運転者が直ちに運転できる状態であれば、荷待ちの場合などに長時間道路上に車を止めても駐車とはならない。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問2. 徐行に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選び、解答用紙の該当する欄に○を付けなさい。

- 1. 歩道と車道の区別のない道路を通行する場合その他の場合において、歩行者の側方通過時に安全な間隔がとれないときは徐行して進行する。
- 2. 勾配の急な上り坂や下り坂では徐行して進行する。
- 3. 優先道路を通行している場合でも、左右の見とおしがきかない交差点では徐行して進行する。
- 4. 横断歩道を歩行者が横断しようとしているときは徐行して歩行者の横断を妨げないようにする。

問3. 運転者の遵守事項に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄に○を付けなさい。

1. 正当な理由がないのに、著しく他人に迷惑を及ぼすこととなる騒音を生じさせるような方法で、急発進や急加速、空ぶかしをしてはならない。
2. むかるみ又は水たまりを通行するときは、泥よけ器を付け、又は徐行する等して、泥土や汚水等を飛散させて他人に迷惑を及ぼすことがないようにする。
3. 高齢の歩行者でその通行に支障のあるものが通行しているときは、安全な間隔をあけて、その通行を妨げないようにする。
4. 道路の左側部分に設けられた安全地帯の側方を通過する場合において、安全地帯に歩行者がいるときは徐行する。

問4. 交差点の通行に関するア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。


- ア 右折するために、直進車や左折車よりも先に交差点に入った場合でも、直進車や左折車の進行を妨害してはならない。
- イ 左折するときは内輪差を考慮し、できるだけ左側端に寄らないようにして徐行する。
- ウ 交差点の前方の交通が混雑しているため、交差点内で停止し、交差道路の車などの進行を妨げるおそれがあるときは、徐行して交差点に進入しなければならない。
- エ 交通整理の行なわれていない道幅が同じような道路の交差点では、左方からくる車の進行を妨げてはならない。

1. 一つ
2. 二つ
3. 三つ
4. 四つ

【○×正誤式問題】

次の問5から問40までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙に○を、誤っていると思うものについては解答用紙に×を付けなさい。

問5. 軌道敷内は通行が禁止されているが、右左折のために軌道敷内を横切るときは通行することができる。

問6.  この標識のある場所は、乗用自動車は通行できるが、貨物自動車は通行できない。

問7. 前方の道路渋滞等により、横断歩道内で動きがとれなくなるおそれがあるときは、横断歩道に入ってはならない。

問8. 後方の状況を確認するためにシートベルトをはずして後退し、その後再装着して前進した。

問9. 助手席同乗者が不用意にドアを開けたために交通の危険が生じた場合は、運転者には責任はない。


問10. 準中型免許は、最大積載量2トン以上4.5トン未満または車両総重量3.5トン以上7.5トン未満の自動車該当し、基礎的免許の一つとして、18歳から、普通免許の保有を必要とせずに直接取得でき、自家用途であれば乗車定員11人の自動車も運転することが出来る。


問11. 車は、「一時停止」の標識があるときは停止線の直前、停止線の無いところでは標識の直前で一時停止をするとともに、交差する道路を通行している車や路面電車の進行を妨げてはいけない。

問12. 走行中の携帯電話での通話は禁止されているが、メールを作成したり、読みだりすることは禁止されていない。

問13. 自動車（大型自動二輪車、普通自動二輪車及び小型特殊自動車を除く）は、夜間やむを得ず幅員が5.5メートル以上ある道路に駐停車するときは、非常点滅表示灯または尾灯をつけなければならないが、尾灯をつけて駐停車しているときや道路照明などにより50メートル後方から見える場所に駐停車しているとき、もしくは夜間用停止表示器材を置いているときは、これらの灯火を点灯しなくてよい。


問14. 故障車等をロープ等でけん引する長さ制限は、けん引する車の前端からけん引される車の前端までの長さを25メートル以内と定められている。

問15.  自動車（路線バス等を除く。）は、この標識のある車両通行帯では、路線バス等が後方から接近してきた場合に、その車両通行帯から出られないおそれがあるときは通行してはならないが、路線バス等のほか貨物を輸送する事業用自動車でも、公安委員会が特に必要であると認めて指定したものは通行することができる。

問16.  この標識は「大型貨物自動車等通行止め」であり、車両の総重量が9,000キログラムの貨物自動車は中型自動車なので通行してもよい。

問17. 警察官が、信号機が表示する信号と異なった意味の手信号をしている場合は、警察官の手信号に従わなければならない。

問18. 車両総重量8,000キログラムの中型貨物自動車は、標識や標示で最高速度が指定されていない高速自動車国道の本線車道での最高速度は時速100キロメートルである。

問19.  この標識は、最大積載量が5.5トンを超える車は通行できないことを示している。

問20. 赤色の点滅信号の場合、車も歩行者も必ず一時停止して安全確認をしなければならない。

問21. 過失ではなく故意に危険な運転をして人を死傷させた場合は、危険運転致死傷罪が適用される。自動車運転死傷行為処罰法の成立に伴い、同罪の規定は刑法から同法に移され、名称も過失運転致死傷罪に変更された。

問22. 平成19年8月1日に普通自動車免許を受けた者は、最大積載量2,000キログラム、車両総重量5,100キログラムの貨物自動車の運転ができる。

問23. コンビニエンスストアで飲料水を買うなどで、短時間、車を離れるときにはエンジンを切らなくてもよい。

問24. 大型貨物自動車を運転中、歩行者に泥はねをしてしまった場合、違反点数はないが反則金はある。

問25. 第一種運転免許は、大型免許、中型免許、準中型免許、普通免許、大型特殊免許、大型二輪免許、普通二輪免許、原付免許及びけん引免許の9種類である。

問26. 中型免許で大型自動車を運転した場合は、大型自動車等無資格運転となる。


問27. トンネル内では車両通行帯の有無に関係なく、追越しが禁止されている。

問28. 横断歩道とその手前5メートル以内の場所は、駐車も停車も禁止されているが、横断歩道の先5メートル以内の場所は駐停車禁止場所ではない。

問29. 自動車の運転者は酒気を帯びて運転してはならないが、軽車両（自転車等）の場合はその限りでなく、禁止の規定はない。

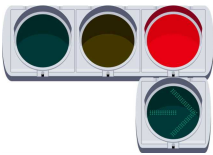
問30. 普通貨物自動車を運転中、同一方向に二つの車両通行帯が設けられた道路においては、道路の左側端から数えて1番目の車両通行帯を通行しなければならない。

問31. 夜間とは、午後7時から午前6時までのことである。

問32.  左の標識は、追越しのため右側部分にはみ出して通行することを禁止する規制標識なので、中央線をはみ出さなければ追越してもかまわない。

問33. 高速自動車国道等における車間距離の保持の規定に違反となるような行為をした場合における罰則は、3月以下の懲役又は5万円以下の罰金である。

問34. 大型免許を取得した場合、中型自動車、準中型自動車、普通自動車、大型特殊自動車、小型特殊自動車並びに原動機付自転車を運転することができる。

問35.  信号機がこの表示の場合には、右折に加えて、転回もできる（転回が禁止されている交差点は除く）。

問36. 自動車は、法令の規定によりその速度を減ずる場合及び危険を防止するためやむを得ない場合を除き、高速自動車国道の本線車道（政令で定めるものを除く。）においては、道路標識等により自動車の最低速度が指定されている区間にあつてはその最低速度に、その他の区間にあつては政令で定める最低速度である40km/hに達しない速度で進行してはならない。

- 問37. 走行中の車から煙草の吸殻や紙くずを投げ捨てるのは、違反行為ではないが、マナーに反する恥ずべき行為である。
- 問38. 道路交通法の規定では、走行中に携帯電話やスマートフォンなどの画像を注視することは禁止されているが、液晶の速度計の注視については禁止されていない。
- 問39. 貨物自動車に積載できる貨物の幅は、自動車の幅の1.1倍までである。
- 問40. 道路の幅が狭く車両の右側の道路上に3.5メートル以上の余地がとれない道路であったが、運転者がその車両を離れない状態で貨物の積卸しを伴う駐車をした。

Ⅱ 構造機能（20問）

【4肢択一式問題】

問41. 事業用貨物自動車の点検整備に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

1. 運行開始前の日常点検の結果により、運行の可否を決定するのは整備管理者である。
2. 日常点検は、1日1回、運行の開始前に行わなければならない。
3. 定期点検整備は、6か月ごと、12か月ごとの2種類があり、自動車点検基準により行わなければならない。
4. 点検整備記録簿の保存期間は、1年間である。

問42. 事業用貨物自動車の日常点検に関するア～エの点検内容のうち、走行距離や運行時の状態等から判断した適切な時期に行うことで足りるものはいくつあるか。解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

- ア 冷却水の量が適当であること。
- イ ブレーキの液量が適当であること。
- ウ 駐車ブレーキ・レバーの引きしろが適当であること。
- エ タイヤの溝の深さが十分であること。

1. 一つ
2. 二つ
3. 三つ
4. 四つ

問43. 灯火類の灯光の色に関する次の記述のうち正しいものはいくつあるか。次の1から4の中から1つ選び、解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

- ア 番号灯の灯光の色は、黄色であること。
- イ 尾灯の灯光の色は、赤色であること。
- ウ 制動灯の灯光の色は、橙色であること。
- エ 後退灯の灯光の色は、白色であること。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問44. 車両点検を実施する際の留意事項に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ 選び、解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

- 1. 平たんな場所で行うこと。
- 2. パーキング・ブレーキを確実に効かせ、ギアはバックに入れること。
- 3. エンジンを止め、スタータ・キーを必ず抜き取ること。
- 4. タイヤに輪止めをかけること。

【○×正誤式問題】

次の問45から問60までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙に○を、誤っていると思うものについては解答用紙に×を付けなさい。

問45. 燃料タンクの注入口及びガス抜口は、排気管の開口方向になく、かつ、排気管の開口部から300mm以上離れていなければならない。

問46. タイヤには、残り溝が1.6ミリメートルになると現れる「スリップサイン」が設けられている。

問47. 車両総重量が7トン未満の貨物自動車に備える突入防止装置の長さは、これを備える自動車の幅の60%以上でなければならない。

問48. 長さが5メートルを超える普通自動車の両側面には、側方灯又は側方反射器を備え付けなければならない。

問49. セミトレーラ以外の自動車であって、最遠軸距が5.5メートル未満の場合の車両総重量は、25トンを超えてはならない。

問50. 番号灯は、夜間後方20メートルの距離から自動車登録番号標、臨時運行許可番号標、回送運行許可番号標又は車両番号標の数字等の表示を確認できるものでなければならない。

問51. すれ違い用前照灯は、その全てを同時に照射したとき、夜間にその前方50メートルの距離にある交通上の障害物を確認できる性能を有していなければならない。

問52. 万が一の故障や事故に備えて非常信号用具を備えることとなっているが、赤色合図灯及び発炎筒の両方を備えなくてはならない。

- 問53. 事業用トラックのタイヤの空気圧が適当であるかどうかの点検は、自動車の走行距離や運行時の状態等から判断した適切な時期に行えばよい。
- 問54. 車両総重量8トンの貨物の運送の用に供する自動車について、初めて自動車検査証の交付を受ける場合の自動車検査証の有効期間は2年である。
- 問55. 自動車（一般乗合旅客自動車運送事業用自動車を除く。）の前面ガラスの上方には、灯光の色が青紫色である灯火を備えてはならない。
- 問56. 警音器は、運転者が運転席において、音の大きさ又は音色を容易に変化させることのできるものであってはならない。
- 問57. 後部霧灯は、前照灯又は前部霧灯が点灯している場合にのみ点灯できる構造であり、かつ、前照灯又は前部霧灯のいずれが点灯している場合においても消灯できる構造でなければならない。
- 問58. 貨物自動車の車体の後面には、車両総重量を表示しなければならない。
- 問59. 車両総重量5トン以上の事業用自動車については、ディスク・ホイールの取付状態が不良でないかどうかを点検しなければならない。
- 問60. 車両重量8,500kg、乗車定員3名、最大積載量10,000kgの普通貨物自動車の車両総重量は18,665キログラムである。

Ⅲ 運転常識（20問）

【4肢択一式問題】

問61. 運転時の危険な現象に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

1. 「フェード現象」とは、フットブレーキを使い過ぎると、ブレーキドラムやブレーキライニングが過熱して摩擦力が減少し、ブレーキの効きが悪くなる現象をいう。
2. 「スタンディングウェーブ現象」とは、タイヤの空気圧が低い状態で高速走行をすると、タイヤに波状の変形が生じる現象をいう。
3. 「ベーパーロック現象」とは、高速走行時に急ブレーキをかけるとタイヤがロックする現象をいう。
4. 「ハイドロプレーニング現象」とは、路面が水で覆われているときに高速で走行すると、タイヤが水上スキーのように水膜の上を滑走し、ハンドルもブレーキもきかなくなる現象をいう。

問62. 貨物自動車運転者の拘束時間に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選び、解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

1. 1か月の拘束時間の限度は、原則として300時間である。
2. 1日(始業時刻から起算して24時間)の拘束時間は13時間以内を基本とし、延長する場合でも16時間が限度である。
3. 乗務の途中でフェリーに乗船する場合、乗船時間の2時間は拘束時間として取り扱う。
4. 拘束時間とは、労働時間と休憩時間を合わせた時間をいうが、仮眠時間は拘束時間には含まれない。

問63. 事業用貨物自動車の運転者に対する「点呼」（ただし、輸送の安全の確保に関する取組が優良であると認められる営業所において、国土交通大臣が定める機器による方法によるものを除く。）に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

- ア 乗務後の点呼は、対面（運行上やむを得ない場合は電話その他の方法）により行い、当該乗務に係る事業用自動車、道路及び運行の状況並びに他の運転者と交替した場合にあっては規定に基づく通告について報告を求め、及び酒気帯びの有無について確認を行わなければならない。
- イ アルコール検知器による酒気帯びの有無の確認は、乗務前及び乗務後の対面点呼の際に行う必要があるが、運転者の状態を目視等で確認した結果、酒気帯びのおそれがないと判断できる場合は、アルコール検知器を使用する必要はない。
- ウ 乗務前又は乗務後の点呼のいずれかが対面で行うことができない乗務を行う運転者に対しては、当該点呼のほかに、当該乗務の途中において少なくとも1回電話その他の方法により点呼を行わなければならない。
- エ 乗務前の点呼は、対面（運行上やむを得ない場合は電話その他の方法）により行い、①酒気帯びの有無、②疾病、疲労その他の理由により安全な運転をすることができないおそれの有無、③道路運送車両法の規定による点検の実施又はその確認について報告を求め、及び確認を行い、並びに事業用自動車の運行の安全を確保するために必要な指示をしなければならない。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問64. スピードと運転に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

1. 車の制動距離は、スピードの2乗に比例して長くなる。
2. スピードが2倍になれば、カーブで働く遠心力も2倍になる。
3. 高速で走行すると視力が低下して、近くのはぼやけて見える。
4. 夜間高速で走っていると速度感が鈍り、速度を出し過ぎる傾向がある。

問65. 「事業用自動車の運転者が遵守すべき事項」に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

1. 他の運転者と交替して乗務を開始しようとするときは、当該他の運転者から法令に定める通告を受け、当該事業用自動車の制動装置、走行装置その他重要な装置の機能について点検をすること。
2. 乗務を開始しようとするとき、法令に規定する乗務の途中及び乗務を終了したときは、貨物自動車運送事業者が行う点呼を受け、貨物自動車運送事業者これらの規定による報告をすること。
3. 疾病、疲労その他の理由により安全な運転をすることができないおそれがあるときは、その旨を貨物自動車運送事業者に申し出ること。
4. 日常点検を実施し、又はその整備をすること。

【○×正誤式問題】

次の問66から問80までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙に○を、誤っていると思うものについては解答用紙に×を付けなさい。

- 問66. 車長の長いトラックは、乗用車よりもホイールベースが長いので、内輪差は小さくなる。
- 問67. 時速60 km/hで走行中の車が衝突した時の衝撃力は、時速20 km/hの時の衝撃力と比べ6倍になる。
- 問68. 急発進、急加速の走行や加減速を繰り返す波状運転は、通常の走行に比べて極めて燃費が悪くなるので、ゆっくり加速して早めにシフトアップしたり、速度を一定に保つ定速運転をすることがエコドライブにつながる。
- 問69. 運転者が一の運行における最初の勤務を開始してから最後の勤務を終了するまでの時間（フェリーに乗船する場合における休息期間を除く。）は、144時間を超えてはならない。
- 問70. 60 km/hで走行中の自動車の2秒間の走行距離は、約33メートルである。
- 問71. 事業用自動車の運転者が酒気を帯びた状態にあるときは、その旨を事業者に申し出なければならないが、呼気中のアルコール濃度が0.15 mg/l以下であれば、少量のアルコールが検知されても道路交通法の酒気帯び運転とならないので申し出る必要はない。
- 問72. 運行指示書を作成しなければならない運行の途中において、運行の経路に変更が生じた場合には、営業所で保管する運行指示書の写しに変更内容を記載しておけばよく、運転者の携行している運行指示書に変更内容を記載する必要はない。

- 問73. 片側が転落のおそれがあるがけになっている道路で、安全な行き違いができないときは、がけ側の車は一時停止をして道を譲る。
- 問74. 雨で濡れていない路面であってもタイヤの空気圧が高過ぎると、高速走行時にハイドロプレーニング現象が発生しやすくなる。
- 問75. 深夜業務を行う乗務員は、1年に1回、定期健康診断を受ける必要がある。
- 問76. 交替して乗務を開始する運転者は、乗務する事業用貨物自動車に異状がない旨の通告を受けた場合は、制動装置その他の重要な装置の機能についての点検は省略することができる。
- 問77. 連続運転時間は4時間までであり、それを超えて運転をする場合には、1回が5分以上、合計が30分以上の運転の中断（休憩等）が必要である。
- 問78. ある特定日の運転時間が11時間であった場合、その前日の運転時間が8時間、その翌日の運転時間が7時間であった場合には、改善基準告示違反とはならない。
- 問79. 薄暮時には、早目にヘッドライトを点灯し、自車の存在を知らせるのがよい。
- 問80. 二日酔いで酒気が残っていても、アルコールの程度が呼気1リットルにつき0.15ミリグラム未満であれば乗務しても差し支えない。